

【編集後記】

26巻 第4号の編集が終わりました。今号は吉田博久氏の解説のほか、オリジナル論文が3篇掲載されています。吉田氏のは熱分析とX線回折法などの他の手段を組み合わせた同時測定に関する手法を高分子結晶化の研究に適用した研究の貴重な解説文ですが、本学会々員のみならず、高分子分野の研究者をはじめ、多くの方々にとっても有益なものとなるはずと考えています。また、オリジナル論文は錯体と生化学分野のものですが、このような各分野からの投稿が少しずつ増えているのはまことに喜ばしいことです。

4年前、久しぶりに編集の仕事に携わることになった当時、本学会でも英文誌を出すべき時期にきているのではないかということを編集後記に書きました。IUPACの化学熱力学国際会議を実質担って見事に成功させた実績、熱測定・熱分析を基盤とする学会自体が世界的にもユニークなものであること、カロリメトリーやその技術に関する学会誌がないに等しい状況であり、それが渴望されているとすれば、世界でそれを担うのは日本熱測定学会しかない、というのがその論拠でした。

もちろん、これは夢のような話であり、一挙に実現するものでもなく、また不用意に無理強いて実現させるもの

でもありません。学会誌がまず会員のためのものであり、そのためになすべきことがまだまだあるというのは当然のことです。

編集委員としての任期はこの号で終わります。後半の委員長の時期を含め、4年間はあっという間に過ぎました。しかし、その間、若い研究者の方々と編集という共通の目的のために共に働く時間を持てたことを大変幸せに感じています。それと同時に学会が各分野の多くの方々によって支えられていることを実感することができました。一方、各種のアワードの受賞をはじめ、国際的に高い評価を得た会員がどんどん出てきています。各国の状況を聞くにつけ、日本熱測定学会が高いポテンシャルを持ちあわすことがひしひしと感じられます。そのポテンシャルが学界への貢献として活かされる一つの形が学会誌であります。今後も会員の皆様が熱測定誌をいろいろな形で盛り立てて下さいますよう期待しております。

最後になりましたが、取りまとめ役としては力不足の私を支えて下さった編集委員、地域編集委員、事務局の土信田様に感謝申し上げてこの編集後記を結びます。

(高橋克忠)

「熱測定」編集委員会

(委員長) 高橋克忠
 (編集委員) 八田一郎, 生田博将, 酒井夏子, 花屋 実, 前田洋治, 山崎淳司
 (地域編集委員) 土田 猛, 板垣乙未生, 増田芳男, 松井恒雄, 溝田忠人, 武田 清, 安藝初美

熱測定 Vol.26, No.4, 1999

昭和52年5月27日

第4種郵便物(学術刊行物)認可

平成11年9月25日 印刷

平成11年9月30日 発行

発行人 日本熱測定学会 高橋洋一

事務局 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-6-7 宮沢ビル601

電話 03-5821-7120 FAX. 03-5821-7439 E-mail: QYZ05607@nifty.ne.jp

学会ホームページ <http://www.indchem.metro-u.ac.jp/jscta>

郵便振替口座 00190-5-110303